

第33号 通巻第7巻第4号

1987年7月1日発行

守山市立埋蔵文化財センター

TEL 0775-85-4397

F 524-02

守山市服部町2250番地

はじめに

いよいよ夏本番を迎え、発掘調査を進めるうえでの障害は、「雨降り」から「日照り」にうつりかわってきます。褐色の地面は、強い日差しでみるみる煤瓦の様な固い土塊と化し、掘削作業も石工人の趣が漂っています。遠景がゆらぐ炎天下での作業は、緩慢な動作でさえとめどない汗が伴い、つつい息憊になりがちです。夏期休暇に入った学生達が次第に現場につめて来るようになりその若さでのりこえてきたこれまでの夏がまたやってきました。

発掘調査だより

新年度も、早四半期が過ぎ、多くの遺跡調査が既に終了し、新たに開始されています。本格調査については、8件（前年度からの継続を含み、横江遺跡を除く。）と前年度同時期に比べその件数は増加しています。主な実施調査は下表のとおりですが、この中から2、3の調査について、その概略を報告していきたいと思います。

発掘調査の動向

調査遺跡名	所在地	備考
(終了)		
川田	川田町地先	61.10~62.5 古墳を発見し、埴輪が出土。
下之郷	下之郷町地先	62.5 弥生時代中期の環濠を検出する。
岡	岡町地先	62.4~5 隣地が既調査地。溝、柱穴など検出。
益須寺	吉身町	62.4~6 奈良~平安時代の掘立柱建物。
横江	横江町地先	58.6~62.6 中世集落他。(県協会主体調査)
(継続)		
吉身西	守山町地先	62.5~ 弥生時代後期の方形周溝墓を検出。
(開始)		
杉江東	欲賀町地先	62.6~ 当遺跡は鎌倉時代を中心とする集落跡。次号で中間報告。

1 益須寺遺跡の調査

「乙貞」前号でも触れました益須寺遺跡の調査は、去る6月18日で終了いたしました。この調査は、吉身町字園田の水田地約1200㎡にスイミングプールが建設されることになったため、それに先立って4月27日より実施したものです。

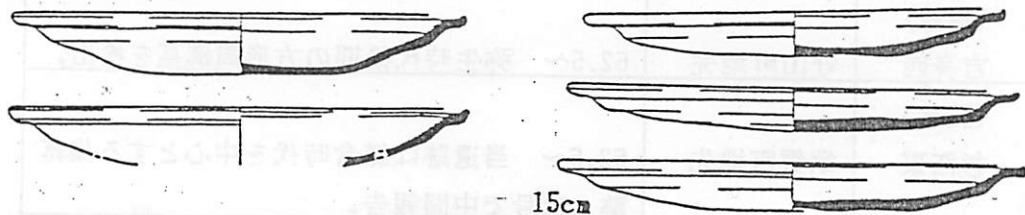
当地に分布する益須寺遺跡とは、「日本書紀」にも登場する白鳳寺院益須寺の名に由来する遺跡で、寺院跡として周知されています。しかし現在まで数次の実施調査の成果では、この寺院に供されたと考えられる瓦が若干出土するだけで、寺院に関する遺構を明確に捉えるには至っていません。

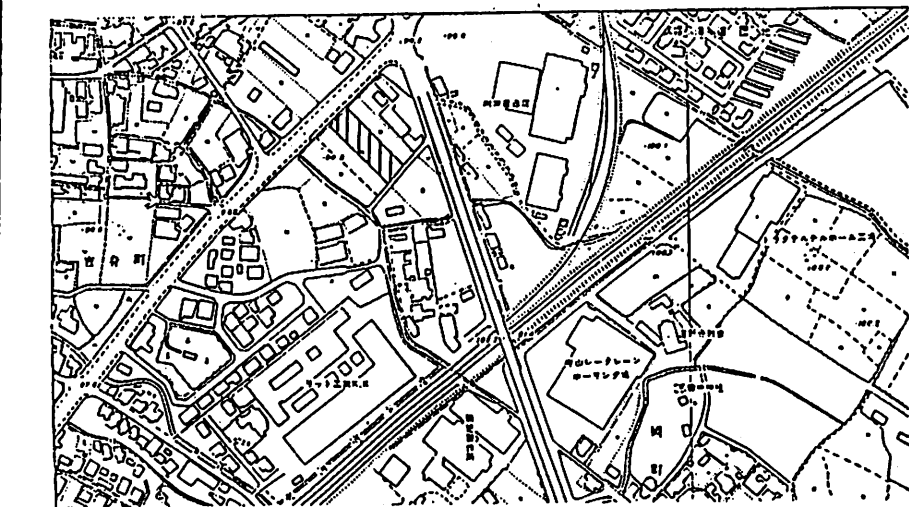
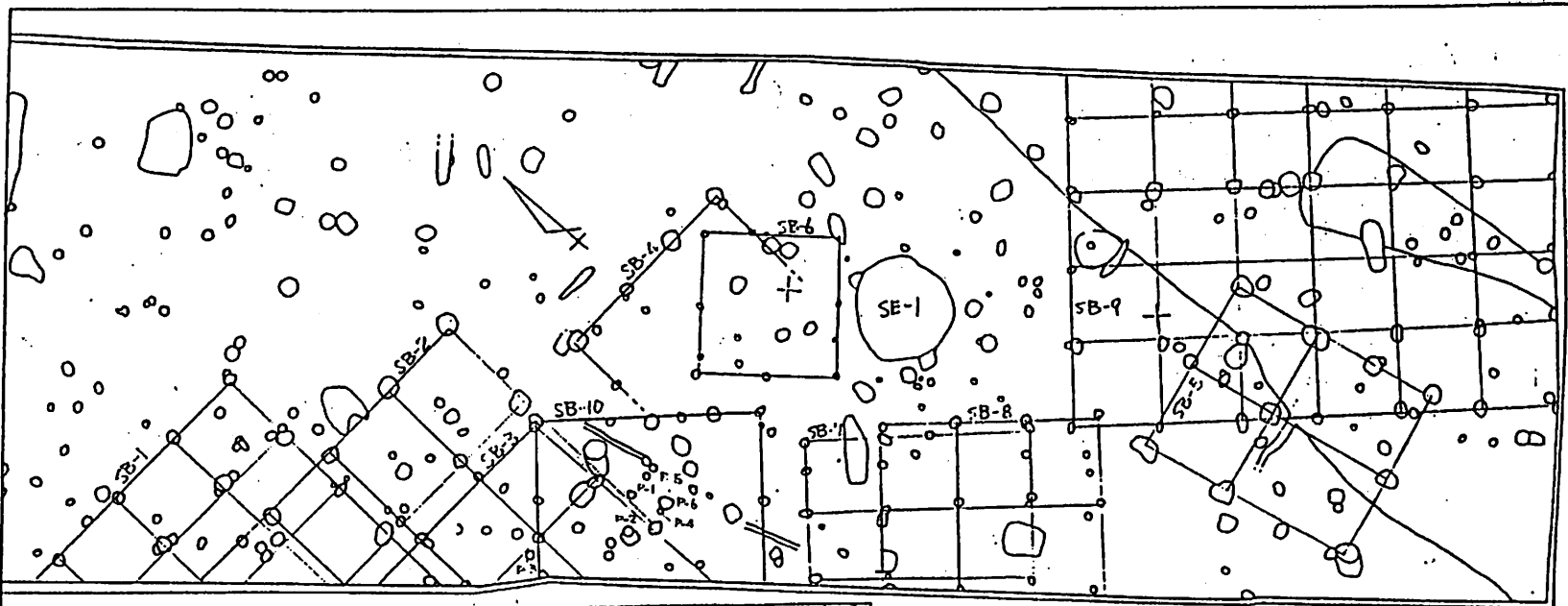
さて今回も寺院に関連する遺構はなく、奈良～平安時代の集落跡の検出という結果になりました。右図のとおり、想定する10棟の掘立柱建物（SB-1～10）、井戸（SE-1）、溝、土塚そして多数のピットがみられます。まず掘立柱建物は、南北を向き、比較的大型の柱穴となる建物群（SB-1～5）と南東-北西を向き、小型の柱穴で構成される建物群（SB-6～10）に大別でき、前者を奈良時代後半～平安時代前半、後者を平安時代中頃に構築されたものと考えられます。また調査区中央より検出した井戸SE-1は、深さ約2.3mの素掘りの井戸で、古い時期つまり奈良時代後半～平安時代前半の

時期の建物群に関わるものと考えられますが、井戸の埋土の中からは、軒丸、軒平瓦片が6点出土しており、その中の均整唐草文の軒平瓦は昭和57年度調査（吉身町字泉海道）で見つかった瓦の文様と同一のもので、益須寺の造営が近辺であった事を窺い知ることができます。次に図にP-1～6と記している柱穴からは、皇朝十二銭最後の貨幣である「延喜通寶」が多数出土しています。P-6からは十数枚が重なっていて、中央の穴には植物繊維が遺存することから、伴出する土師器とともにある数枚の「延喜通寶」を束ねて、柱穴に埋納したものと考えられます。

以上、調査成果の中から、掘立柱建物群と出土した瓦、「延喜通寶」を紹介しましたが、これからこの調査で得た成果を整理していきますので、もう少しすれば報告書あるいは特別展で詳しく報告できるものと思います。

P-6 出土土器





▲益須寺遺跡遺構平面図

◀発掘調査位置図

2 吉身西遺跡の調査

店舗建設に先立ち、守山町字上横枕に所在する水田地約1800㎡を5月18日より発掘調査しています。現在調査工程過半を経っていますが、この時点での成果として、方形周溝墓2基、井戸3基の他、多数の土坑の検出を挙げることができます。方形周溝墓は、その溝底より出土するカメ形土器などから弥生時代後期に築造されたもの、また井戸、土坑はそれに遡る弥生時代中期後半の時期に掘り込まれたものと推察できます。

この字上横枕では、一昨年、昨年と3ヶ所発掘調査が行なわれており、弥生時代中期末の集落跡を検出しています。当地で検出する井戸、土坑は集落に関連するもの、そして方形周溝墓は集落の存続が後期にまで及ぶ可能性があることを想像することができます。

3 川田遺跡の調査

昨年10月から進めてきた川田遺跡の調査も、5月末日をもって終了しました。川田町周辺では、これまで発掘調査が行なわれていない空白の地だったのですが、今回の調査では、幻の村「合村」の一部や、鎌倉時代の集落跡、古墳時代後期の古墳など、さまざまな時代の文化財の存在がわかりました。

5月23日に開催した第2回の現地説明会には、約80名の参加者があり、馬形埴輪や人物埴輪と、それらが出土した前方後円墳や木棺を見学していただきました。調査や現地説明に御理解御協力いただいた川田町のみなさん、関係者の方々に調査が無事終了した事を報告し、御礼申し上げます。

4 横江遺跡の調査

昭和58年から開始した横江遺跡の発掘調査もこの6月30日をもちまして終了することができました。4年間にもおよぶ長い調査を完了することができましたのは、地元自治会をはじめ、周辺在住の方々や調査に従事していただいた方々、その他関係者の御理解と御協力によるものであり、「乙貞」の紙面を借りまして御礼申し上げます。

さて、この調査では古墳時代と中世（鎌倉～室町時代）の大集落跡を検出するなど多くの成果をおさめることができ、埋もれていた当地の歴史を解明するうえで重要な資料となりました。いずれこの調査成果は埋文センター特別展で報告したいと考えております。そのおりにぜひ見学いただきたいと思っております。